

キリン生茶“グリーンエコロジーボトル”の開発 ～パッケージ省資源化と物流課題の解決～

大久保 辰則
キリンホールディングス株式会社

1. 要約

キリンビバレッジの CSV*環境フラッグシップブランドである「キリン生茶」において、お客様の環境意識の高まりや商品物流における課題に適合すべく、「グリーンエコロジーボトル」を新たに開発・上市を実現した。

※CSV：Creating Shared Value の略語

2. 目的

キリンビバレッジの CSV 環境フラッグシップである「キリン生茶」は、2016年に新容器として円筒型 PET ボトル「グリーンボトル」を採用してきたが、お客様の環境意識の高まりや商品物流におけるトラック輸送ドライバーの人手不足の顕在化に伴って、この時代に適合した新形状ボトルを開発することにした。

については、「100%リサイクル素材の PET ボトル採用」、「商品情報を記載するパッケージの省資源化」や「製品をパレットに積載する箱数の効率化」の視点を開発要素として盛り込んだ。そこで、環境に関する社会やお客様の課題解決を図るべく、新形状 PET ボトル「グリーンエコロジーボトル」を 2022年に上市した。

3. 方法

新形状 PET ボトルの開発コンセプトは、商品に使用するパッケージの省資源化とトラック輸送ドライバー不足をはじめとした物流課題の解決に貢献する PET ボトルとした。具体的には、以下の点について改良を図った。

- (1) 省資源化ラベル対応：短尺かつ薄肉ロールラベルを巻付可能なボトル形状
- (2) 商品の積載効率向上：商品輸送用パレットへの積載効率を考慮した角筒型ボトル形状
- (3) ボトル軽量化の推進：今後の更なる軽量化を見据えた強度保持のリブ形状の付与
- (4) 製造工場での投資圧縮：525ml と 600ml ボトルのロールラベル仕様&ラベル巻付け部のボトル形状統一
- (5) ラベルレス商品用板紙の省資源化：ラベルレス商品の視認性と保持性能の両立
- (6) 段ボールカートン使用量適正化：角筒型ボトルへ採用段ボールカートン寸法の適性化

4. 結果

上述の新形状ボトル設計を行い、以下のパッケージ省資源化と商品物流における課題解決を実現できた。

- (1) 省資源化ラベル対応：ラベル丈 175⇒95mm、ラベル厚さ 35⇒30 μ m、プラスチック使用量 現行比約 40%削減
- (2) 商品の積載効率向上：1パレットの積載可能箱数 48⇒60箱（現行比 25%向上）
- (3) ボトル軽量化の推進：PET 樹脂総使用量 現行比 675t 削減（今後切替予定）
- (4) 製造工場での投資圧縮：新形状ボトル用型替部品の投資費用圧縮
- (5) ラベルレス商品用板紙の省資源化：板紙使用量 現行比約 30%削減、商品の視認性向上
- (6) 段ボールカートン使用量適正化：1箱あたりの使用量 323⇒282g（現行比約 13%削減）

今後も「グリーンエコロジーボトル」の開発事例のように、社会課題の解決と同時に地球と自社の持続可能性が高まる価値創造型のパッケージ開発を実現していく。